

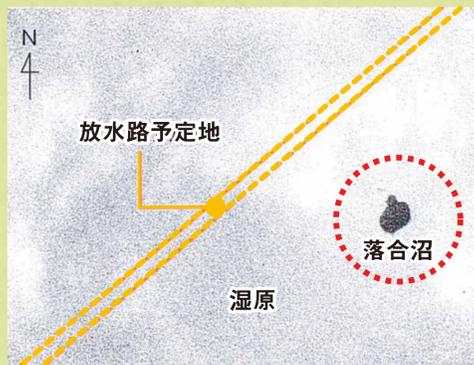
サロベツ川放水路南側湿原周辺の乾燥化対策



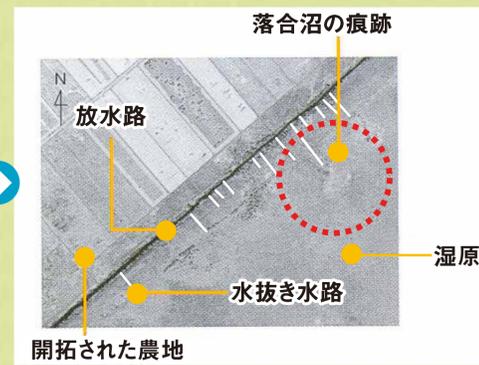
歴史

「サロベツ川放水路南側湿原周辺」の歴史

開拓が始まって以来、サロベツ川の氾濫は開発の大きな妨げとなっていました。このため、緊急度の高いサロベツ川上流部の氾濫防止のため、1961年(S36)からサロベツ川放水路掘削工事が行われました。



1947年当時のサロベツ川放水路周辺の航空写真。右側に落合沼の水面が見える。



2000年のサロベツ川放水路周辺の航空写真。落合沼は干上がっている。

問題

放水路に向かって地下水が流出し、高層湿原の乾燥化が進んでいます。

サロベツ川放水路周辺は、放水路の開削によって地下水が流出するようになり、湿原の地下水位の低下が生じました。かつてはミズゴケやツルコケモモ等が主に生育する高層湿原植生でしたが、乾燥化によってササやヌマガヤが生育しやすい植生に変化しました。

かつての植生
(高層湿原植生)



現在の植生



開削前

地下水位は高く安定し、高層湿原植生が分布していた

開削後

放水路沿いの地下水位が低下し、ヌマガヤ群落が分布

放水路の開削による放水路付近の地下水位の低下

目標

高層湿原植生の回復を図ります。

サロベツ川放水路の開削時に設置された水抜き水路からの地下水の流出を防ぎ、背後の高層湿原植生の劣化を防ぐことを目的として、水抜き水路への堰の設置または泥炭による埋め戻しを行っています。

このことにより

低下していた地下水位を上昇させ、湿原植生の回復を図ります

水抜き水路堰き止めイメージ

施工前



施工後



取り組み

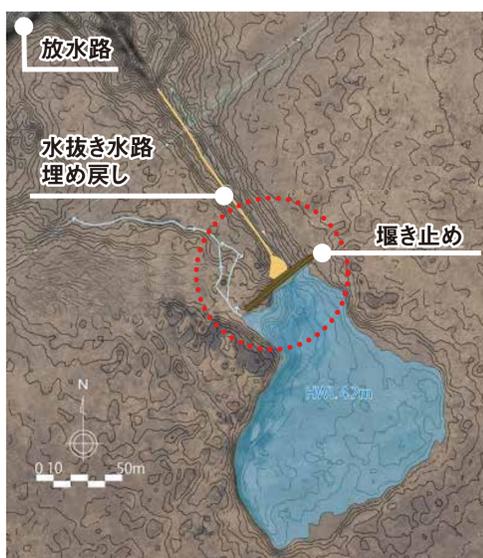
「サロベツ川放水路南側湿原周辺」では次の取り組みを行っています。

水抜き水路の堰き止め

落合沼では、水抜き水路への堰の設置または埋め戻しを行い、落合沼跡の窪地及び水路に湛水面を形成させ、周囲の地下水位の低下を抑制しています。また、落合沼以外の水抜き水路も堰き止めを行います。

放水路への地下水の流出を防ぐことによって、周辺の高層湿原植生を再生します。

落合沼の堰き止め



堰き止め前の落合沼



2000年撮影

現状の落合沼(湛水が維持されています)



2012年撮影